

第69回

早慶バドミントン 定期戦大会



令和3年 12月4日(土) 日吉記念館

主催:慶應義塾体育会バドミントン部
早稲田大学バドミントン部

協賛:ヨネックス株式会社

バドミントンプロショップ WEMBLEY

目次

部長・会長挨拶	3
監督挨拶	5
過去の対戦成績	7
慶早戦に寄せて	9
早慶戦に寄せて	10
前主将挨拶	11
主将挨拶	12
慶應義塾大学選手・コーチ紹介	14
早稲田大学選手・コーチ紹介	19
本年度試合結果	23
当日の様子	24



コロナ禍という未曾有の状況にもかかわらず、第69回早慶バドミントン定期戦が開催されるということで、たいへん喜ばしく思います。開催に当たってご尽力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

部長を拝命してから、早いもので、今年で7年目となります。私自身はバドミントンの経験はなく、競技としては、まったくはじめて見るものでした。そのため残念ながら今でも詳細はわからないのですが、素人目からは、細かな駆け引きが難解な、見た目以上に過酷なスポーツであるように思われます。その一方で、子供から大人まで一緒に楽しむようなスタイルも可能であり、幅の広い、たいへん素晴らしいスポーツであると感じているところです。この点は、私が大学生のころサークルでプレーしていたアイスホッケーとはかなり異なります（引退後に、リンクに上がるのはなかなか困難です）。

そのようなバドミントン競技における厳しい面をこの早慶戦で見ることができるだろうと期待します。何人かの例外を除けば、4年生にとっては、競技としてのバドミントン生活の最後の大舞台でしょう。4年生含めて悔いの残らぬよう、どうぞがんばってください。



猛威を振るうコロナウイルス感染もようやく沈静化する兆しがある中、新たなオミクロン株というコロナウイルスが日本でも感染が確認され、予断を許さない中ではありますが、昨年は無観客が開催した早慶バドミントン定期戦も、今年は人数制限はあるものの有観客で開催できることをとても大変嬉しく思います。

その中で、今回も現役戦のみでOB戦まで開催できなかったことはとても残念ですが、大学当局の意向もあり、受け入れざるを得なかったことをご理解くださいますようお願いいたします。

今年の早慶バドミントン定期戦も、昨年に引続き新築された慶應の日吉記念館で開催され、今年は特に慶應OBの方におかれては初めてその記念館を体感していただけることをとても嬉しく思っています。

さて、今年のバドミントン界は1年遅れの東京オリンピックで盛り上がりましたが、本番で力を出し切ることがとても難しいものだという事を痛感させられたように感じています。

迎えた今年の早慶バドミントン定期戦も大学年4生にとっては最後の晴れ舞台であり、公式戦でもあります。男子5複10単、女子2複3単という総力戦は変わりませんが、そこに出場する選手、特に4年生は万感の思いで、コートに立ち、思う存分、バドミントンを楽しんでもらいたいと強く思います。そして、その晴れ姿を保護者をはじめ大学OB・OG各位に一目見れるように、最大の努力をしてもらい、有観客に辿り着けた現役諸君全員に多大なる謝辞を送りたいと思います。

その中でいろいろなドラマがあると信じており、今年は観客だけでなく、昨年同様リモートなどで応援している方々に感動を与える試合を期待しています。

定期戦は一つの通過点かもしれませんが、節目でもあり、最大限のパフォーマンスを出し切ることに拘ってもらいたいと思っています。

永きにわたる歴史と数々の思い出がいっぱい詰まった定期戦が、昨年よりも今年が良きものになってもらいたいと思いますし、新たな1ページを刻んでくれるものと確信しています。

新型コロナウイルス禍ではありますが、感染予防対策に積極的に取り組むことにより、確保できた有観客という昨年より進歩したカタチの早慶定期戦の開催にあたり準備等にご尽力いただいた皆さまに再度感謝申し上げ、第69回の早慶バドミントン定期戦に向けた挨拶とさせていただきます。



第69回早慶バドミントン定期戦開催、誠におめでとうございます。今年度も定期戦開催を迎えられたのも、ひとえに早慶OB・OGの皆様方のご尽力であり、学生諸君には、感謝の気持ちを忘れずに本定期戦に臨んでもらいたいと思います。

今季も新型コロナウイルス感染症（Covid-19）は学生の生活に大きな影響を与えており、授業では、対面授業とオンライン授業を並行して実施するハイフレックス型授業という概念も生まれ、学生諸君にとっては心身においてストレスフルな状況が続いているかと思われます。しかしこのニューノーマルな状態をいつまでも悲観せずに、新しい社会を皆さんの力で構築するためにも、「早慶」の力を合わせてぜひ乗り越えてください。

さて、延期による開催となった東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、本学OBの嘉村健士君が男子ダブルス5位入賞を果たしました。大変厳しい環境の中で国民に夢を与えてくれたことは、大変誇りに感じます。現役諸君においては、自分自身及びそれぞれのチームが将来のバドミントン界を背負っていくのだという意気込みをぜひ持ってもらい、次回のパリオリンピック開催時には、競技選手としての参加だけでなく、選手を支援する側、応援する側など、どのような形でバドミントン競技にぜひ関わってもらいたいと思います。

最後になりましたが、両校の現役諸君及びOB・OGの皆様方が本大会を通じてより一層の交流が深まることを祈念致します。



2021年第69回早慶バドミントン定期戦の開催おめでとうございます。

昨年はコロナ禍により全日本学生選手権始め殆どの大会、定期戦が中止になる中、慶応大学の皆様の多大なるご尽力により、慶応大学日吉記念館で定期戦を行うことが出来ました。

本年も学生の試合日程や会場予定の早稲田アリーナの調整がつかず、慶応大学にお願いして例年より遅い12月4日に日吉記念館で有観客にて開催できますことを心より感謝申し上げます。

この定期戦は、4年生にとって学生最後の団体戦であり、男子5複10単、女子2複3単の総力戦を、両校選手が実力を遺憾なく発揮することを期待しております。

また来年はOB,OG戦は勿論のこと、昔行っていた高校戦を復活させたいとの声もあり、慶応側の体制は出来ているかと思われますので、早稲田側の高校との調整を進めていけたらと考えております。

本日の早慶定期戦は、両校バドミントン部の伝統を繋ぎ、更なる発展を目指す大会となりますことを祈念いたします。

『続くコロナ禍にも決して負けない、両校の熱き想いの交流。“若き血”“紺碧の空”の魂を胸に！』

未曾有のコロナ禍が2年に及ぼうとしているが、まだ収束の気配がない。欧州各国や隣国である韓国の感染者再拡大、そしてオミクロン株の脅威による世界的渡航規制など、まだまだ予断を許さない状況下、両校現役諸君の頑張り、諸先輩方の支援、そして、有観客開催に向けて活路を見出して頂いた慶應義塾体育会鈴木主事のご尽力のもと、無事に今年も早慶戦を開催できることに心の底から感謝致します。また、両校がベストな布陣で戦いあえるよう、日程変更・開催会場変更などの調整にご尽力頂いた両校OB・OG会会長を始めとした諸先輩方に改めて御礼申し上げます。

コロナ禍での様々な制限や、非対面でのリモート形式の活動を、学生だけでなく、社会人である我々も強いられる中で、改めて気づかされたことは、人と人との“リアル”な交流の大切さだ。昨年、ほぼすべての試合が中止になる中、最後の最後に開催出来た早慶戦での両校選手の熱き戦いぶりが今も胸に鮮明に記憶されています。あの“リアル”にぶつかり合う姿は、今思いだしても身震いする程ココロの真ん中に響くものがあります。科学的な説明や勝敗・結果を超えて、その場に立つために努力し築き上げてきたことや、両雄相見える中、我武者羅に突き進む姿勢には無限のチカラが秘められていることの照査だと思う。

私事になりますが、11月末に現役当時（1988年）に記念館で汗を流し苦楽を共にした各部の体育会メンバーが“リアル”に集合しました。急逝したハンドボール部主務勝又憲一君を偲ぶ会でした。ご冥福を皆で祈りながら、現役時代の彼とのエピソードを語りあい、早慶戦の思い出を話しました。まさに今も生き生きと私たち一人一人の脳裏に宿るヒカリです。このような友と一緒に生きたこと、早慶戦を戦ったことを誇りに思います。

出来ないことを嘆き悲しむよりも、如何にして現状から一步でも前に進めるかに腐心する、そんな姿勢で仲間とスクラムを組み、叱咤激励しあう時間を数多く経験できる体育会の環境は素晴らしいと思います。ルールだから守るではなく、己のプライドから行動規範を作り上げ、ブレずに頑張り抜く！そんな活動を昔から変わらず代々受け継ぎながら進化し続ける両校バドミントン部に関われていることを幸せに思います。そして、その両校が記念館でシャトルを交わしあい、お互いの想いをぶつけ合うことにワクワクしています。

特別な時を過ごした現役諸君、特に四年生はこの世代の代表です。リモート中心の中、“リアル”な活動にこだわり、ひとり一人が行動・自己管理を徹底することで実現可能にしてきた活動の日々です。謂わば努力で勝ち取った“リアル”なフィールドです。試合に出る選手諸君、そして大会を準備し応援をする部員諸君、共に思う存分頑張りたいと思います。

最後に、繰り返しになりますが、両大学関係者のご理解・支援と、現役諸君の頑張り、それを支えた頂いた保護者の方々の温かいサポート、そしてOB・OGの皆様方の多大なご支援・ご協力の中で早慶戦を“リアル”に実現できたことは、大変有意義なことだと思います。皆様に感謝感謝です。

昨年も記しましたが、「ウイルスとの闘い」「国境紛争」「貿易戦争」「水・森林資源争奪」「人種間の偏見や差別との闘い」etc.は人類の歴史でもあります。この“葛藤”こそが成長の“テコ”であり、前進を促す“酵素”だと思います。

「現役諸君、意義ある敗戦・挫折から立ち上がれ！自分の可能性を信じ、仲間を信じて！！」
「WIN THE PROCESS！」

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が大学バドミントン界にも大きな影響を及ぼしております。東日本学生バドミントン選手権大会の中止、関東学生バドミントン春・秋リーグ戦の変則的対応など、選手にとって、非常に困難な局面であることは間違いありません。

そのような中でも、早慶バドミントン定期戦を今年度も開催する運びとなり、伝統ある本定期戦も遂に69回目を迎えることになりました。この昭和28年から続く本定期戦を途切れさせなかったことは、ひとえに関係者の皆様方のご尽力によるもので、感謝申し上げます。

少し話は逸れますが、昨年度に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックが今夏に開催され、白熱した試合を繰り広げられました。私も、テレビにてバドミントン競技の各種目を観戦しました。やはり最も注目し、かつ応援に力が入ったのは、本学OBの嘉村健士選手（平成24年卒、男子ダブルス種目で園田啓悟選手とソノカムペアとして出場、5位入賞）の試合でした。1年間の大会延期で、心身ともに苦しい状況であったことは、察するところがありますが、学生時代から変わらず澁瀬としたプレーで、多くのファンの記憶に残ったのではないのでしょうか。私自身も、嘉村選手が学生時代には一OBとして、魅力的なフットワーク・レシーブに当時から惚れ惚れしておりました。何よりも、勝負に勝つ、という信念が誰よりも強く、当時は全日本学生選手権大会優勝に懸ける思いが我々OBにも響いておりました。

さて、今年度は、本挨拶文を執筆時点では、全日本学生バドミントン選手権大会を開催予定となっており、男女ともに自分達が設定した目標をクリアしていることを期待して、この早慶戦を迎えられればと思います。

今年の早慶戦は、私自身が監督として参戦6年目となりますが、特に4年生（牧野、大林、友金、平野、鈴木）には、4年間の集大成として、各人が悔いのないよう全力を尽くして、慶應の選手らと名勝負を繰り広げてもらいたいと思っております。

また、1年生～3年生においても、独特な雰囲気を持つ本定期戦に対して物怖じせずに、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮する場として、ぜひ勝利を目指してもらいたいです。

最後になりましたが、今年も慶應の現役及びOB・OGの皆様方と本定期戦を一つのきっかけとして両校の友好がさらに深まることを祈念致します。

過去の対戦成績

	大学男子	大学女子	高校の部	OBの部
第1回	○K14-1W			
第2回	○K10-5W	K2-3W○		○三田3-0稲門
第3回	○K10-5W			○三田3-2稲門
第4回	○K12-3W			○三田3-2稲門
第5回	○K13-2W	○K3-0W		○三田4-3稲門
第6回	○K13-2W	○K5-0W		○三田4-3稲門
第7回	○K11-4W	○K4-1W		○三田4-3稲門
第8回	○K11-4W	K2-4W○		○三田5-2稲門
第9回	○K8-7W	K0-5W○		○三田4-3稲門
第10回	○K8-7W	K0-3W○		三田3-4稲門○
第11回	○K13-2W	K0-5W○	○K5-0W	○三田5-3稲門
第12回	K7-8W○	K0-4W○	○K5-0W	三田1{6引分}3稲門○
第13回	K5-10W○	K0-5W○	○K5-0W	○三田5{2引分}3稲門
第14回	K2-13W○	K1-4W○	○K3-2W	三田5{1引分}5稲門
第15回	K4-11W○	○K3-2W	○K5-0W	三田4-7稲門○
第16回	K3-12W○	○K3-2W	○K3-2W	三田2{2引分}5稲門○
第17回	K2-13W○	○K5-0W	○K4-1W	○三田4{3引分}3稲門
第18回	K0-15W○	○K4-1W	K2-3W○	○三田4{4引分}3稲門
第19回	K6-9W○	K2-3W○	○K5-0W	三田4{1引分}5稲門○
第20回	K0-15W○	K0-5W○	○K5-0W	三田3{引分}3稲門
第21回	K6-9W○	K2-3W○	K2-3W○	三田3{4引分}3稲門
第22回	K4-11W○	K1-3W○	K2-3W○	三田1{4引分}4稲門○
第23回	K5-10W○	K1-4W○	○K5-0W	三田3{1引分}6稲門○
第24回	K6-9W○	K2-3W○	○K3-2W	○三田5{3引分}2稲門
第25回	○K11-4W	K2-3W○	○K3-2W	三田2{5引分}3稲門○
第26回	K2-13W○	○K5-0W	K1-4W○	○三田4{6引分}2稲門
第27回	K4-11W○	○K3-2W	○K3-2W	三田3{3引分}4稲門○
第28回	K5-10W○	○K4-1W	○K4-1W	○三田6{3引分}2稲門
第29回	K5-10W○	○K5-0W	○K3-2W	三田3{3引分}4稲門○
第30回	K5-10W○	○K3-2W	○K3-2W	三田2{1引分}7稲門○
第31回	K5-10W○	○K3-2W	○K4-1W	三田2{1引分}5稲門○
第32回	K7-8W○	○K3-2W	K2-3W○	○三田5{2引分}3稲門
第33回	K5-10W○	K1-4W○	○K3-2W	三田3{3引分}4稲門○
第34回	K3-12W○	K1-4W○	○K4-1W	○三田5{1引分}4稲門

過去の対戦成績

	大学男子	大学女子	高校の部	OBの部
第35回	K7-8W○	K0-5W○	○K4-1W	○三田5{1引分}1稲門
第36回	K6-9W○	K0-5W○	○K3-2W	三田2{3引分}5稲門○
第37回	○K10-5W	K0-5W○	○K4-1W	○三田4{4引分}2稲門
第38回	○K10-5W	K0-5W○	K2-3W○	○三田8{1引分}2稲門
第39回	K3-12W○	K1-4W○	K2-3W○	○三田6{2引分}5稲門
第40回	K4-11W○	K0-3W○	K2-3W○	三田5{1引分}7稲門○
第41回	K6-9W○	K1-4W○	○K5-0W	
第42回	K4-11W○	K1-4W○	○K3-2W	○三田5{2引分}3稲門
第43回	K3-12W○	K1-3W○	K0-5W○	三田2-6稲門○
第44回	K5-10W○	K0-4W○	○K3-2W	三田2{3引分}3稲門○
第45回	K5-10W○	K1-4W○	○K3-2W	○三田6{1引分}2稲門
第46回	K4-11W○	K2-3W○		○三田4{5引分}1稲門
第47回	K1-12W○	K1-4W○	○K4-1W	○三田8-0稲門
第48回	K5-10W○	K5-0W○	K1-4W○	三田1{4引分}2稲門
第49回	K3-12W○	K2-3W○	K1-4W○	○三田4{2引分}2稲門
第50回	K1-14W○	K1-4W○	○K3-2W	三田3{3引分}4稲門○
第51回	K1-14W○	K0-3W○	○K11-6W	三田5-6稲門○
第52回	K0-15W○	K0-3W○	○K9-2W	三田2{4引分}7稲門○
第53回	K1-14W○	K0-5W○	○K12-1W	三田4{1引分}4稲門
第54回	K1-14W○	K0-5W○	○K13-1W	○三田4{4引分}3稲門
第55回	K0-15W○	K0-5W○	K3-18W○	三田1{1引分}8稲門○
第56回	K2-13W○	K0-5W○	○K12-9W	三田3{5引分}3稲門
第57回	K2-13W○	K1-4W○	○K12-9W	三田4{2引分}4稲門
第58回	K0-15W○	K0-5W○	K8-13W○	○三田2{2引分}6稲門○
第59回	K1-14W○	K0-5W○	○K3-2W	三田0{4引分}9稲門○
第60回	K1-14W○	K0-5W○	○K3-2W	三田3{2引分}5稲門○
第61回	K2-13W○	K1-4W○	K1-10W○	三田3{1引分}4稲門○
第62回	K3-12W○	○K3-2W	K4-7W○	○三田3{4引分}1稲門
第63回	K3-12W○	K1-4W○	○K8-3W	○三田5{3引分}2稲門
第64回	K3-12W○	K0-5W○	○K8-3W	三田1{3引分}4稲門○
第65回	K3-12W○	K0-5W○	○K8-3W	三田3{4引分}4稲門○
第66回	K3-12W○	K1-4W○		三田1{3引分}7稲門○
第67回	K5-10W○	K2-3W○		三田0{5引分}8稲門○
第68回	K5-7W○	K0-5W○		

慶應義塾体育会バドミントン部 経済学部 平成6年卒 巽弘樹

第69回慶早バドミントン定期戦の開催を心よりお慶び申し上げます。徐々に日常生活の制限も解除されてきてはいるものの、まだまだ予断を許さない中、本定期戦の開催に向けてご尽力された両校関係者の皆様に深く感謝申し上げます。本年度は有観客での開催となり、観戦するOBの方々も現役諸君の雄姿を楽しみにしていると思いますので、現役諸君には日頃の練習の成果を思う存分発揮し、見る者全てに感動を与えるような試合を期待しています。

私が大学1年の時は、前年に久々に慶應が勝利しており、慶應の連勝に貢献するため試合に出たいと考えていました。試合に出場することになり、戦前から慶應が勝利するには自分は確実に勝利しなければならない状況でしたが、緊張もあったのか1ゲーム目を落としてしまいました。その後、監督、OBの皆様等の熱い応援を受け、何とかその試合を勝つことができ、ダブルスも勝って慶應の連勝に微力ながら貢献することが出来ました。今でも、勝利の瞬間のオール慶應の一体感は忘れられません。ただし、残念なことに、その時の勝利以降、慶應は早稲田に勝利していません。現在、早稲田は高い壁となって慶應の前に立ちふさがっていますが、近い将来その壁を打ち破る日が来ると信じています。

私自身、まだ現役プレイヤーとして試合に出ていますが、シニアの大会はコロナ禍の影響を受け中止が相次いでいる状況です。現役諸君は、あらためて試合が出来る喜びを噛みしめ、お互いベストを尽くし、試合後は懇親を深めてもらいたいと願います。

最後に、早慶両校バドミントン部の益々の発展を祈念いたします。

慶應義塾体育会バドミントン部 文学部 平成25年卒 小澤雄貴

はじめに、第69回慶早バドミントン定期戦の開催を心よりお慶び申し上げます。昨年から続く新型コロナウイルスの影響による大会の中止など、今年も様々な苦悩があったことと思います。私も東日本大震災が起きた際に現役部員であり、練習や試合の中止など経験しているため、現役部員のみなさんにとって目標としていた試合が開催されないというやり場のない悔しさは容易に想像できます。そんな中、制限付き有観客という形であれこうして慶早戦を開催できることを心から嬉しく思います。当日は日々の練習の成果を思う存分に発揮し、悔いのない1日を過ごしてください。

私の慶早戦の思い出は、毎年強く記憶に残っています。1年生のときは出場できなかったものの、早稲田の選手のプレーはもちろん、体の大きさや竹まいなどからくる雰囲気にも圧倒され、飲み込まれた記憶。2・3年生時には試合に敗れたものの日本を代表する選手相手に自分のプレーを出し切れた充実感。4年生のときには副将であったため対戦相手が事前にわかっており、1年かけて相手のプレーを頭に入れ勝つことだけ考えてきたにもかかわらず、叶わなかった悔しさ。どれも印象に残っています。また、4年生時に対戦した原田君とは社会人になってから転勤先で再び対戦するなど、卒業してからも縁があることは嬉しく思います（現役時代同様に負けてしまいましたが）。

両校の関係は他大学にはない、特別なものです。この関係が更に深いものとなるよう、試合が終わった後には存分に懇親を深めていただきたいと思います。

最後に、コロナ禍の中、慶早戦開催にご尽力いただいた方々への感謝とともに、慶早両校バドミントン部の益々の発展を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

早稲田大学バドミントン部OB 芳賀涼

早慶バドミントン定期戦が今年も開催されますこと、誠におめでとうございます。

私の最後の参加は現役4年生の頃の約15年前。あらためて思い出すと…ベンチでの先輩方の応援もそうだが、初めて受けた応援部(特にチア)の声援に舞い上がり空回ってしまったこと。慶応の同期で同郷の広田君と出会い、真剣勝負の対戦も果たせたこと。懇親会での交流や、諸先輩方から貴重なお話・ご指導をいただいたこと。昼は勝てたが夜(お酒の勝負)はボロ負けしたこと。独特の雰囲気があって盛り沢山な1日で、今でも当時を多く思い出すことができ驚きます。

最近になり各種大会が開催・再開される状況になってきていますが、これまでは中止も相次ぎ、現役の皆さんは努力の成果を発揮できる場も少なかったのではと思います。葛藤やうっぶんを晴らし楽しみつつも、勝ちにこだわった全力プレーを期待し応援しております。また許される環境の中で最大限交流をはかり、ぜひ繋がりや思い出をたくさん作ってください(…将来ずっと残ります!)

最後になりますが、コロナ禍での開催にご尽力いただいた皆さまへ厚く御礼申し上げますとともに、両校の今後のさらなる飛躍を心よりお祈り申し上げます。

早稲田大学バドミントン部OB 田島宏樹

この度は、第69回早慶バドミントン定期戦が開催されますこと心よりお祝い申し上げます。またこの伝統の一戦の開催に向けてご尽力されました両校の皆様には感謝申し上げます。

私にとって、早慶戦は悔しくて大変で楽しかった思い出がいっぱい詰まった試合です。一年生の時は、出場予定がないはずが、早慶戦3日前まで行われていたインカレにてインフルエンザが蔓延してしまい早稲田陣営も打撃を受け急遽出場することになりました。シングルの対戦相手は、同期の上村聡。本来であれば、新人エース対決で松本と当たる予定で熱い試合が予想できましたが、私の実力不足でボロボロの黒星。四年生時は、インカレにて、24年ぶりに男子団体で優勝し学生日本一のメンバーとして臨みました。日本一になれたこともあり、早稲田の層は厚くなっており、白星を量産している中で、主務対決で荒川君とシングルス。慶応からは、早稲田の穴と見られ特に意気込まれていたのに対して、日本一の主務舐めるなよ!と挑んだのですが、これもまた黒星で本当に悔しい思いをしました。(一年生時に実現出来なかった主将戦の松本vs上村は本当に熱い試合でした。)その後のレセプションでは、ただでさえ下戸の私ですが、その日は一層早く潰れてしまったのは楽しい思い出です。個人的に黒星で終わった早慶戦で現役引退でしたが、前監督の今井さんに「OB戦はレギュラーで出すから」と言われました。OBとしてリベンジマッチが出来るのも伝統ある早慶戦らしさかと思えます。

一方、主務・副務として企画運営を務めた早慶戦でもありました。学生主体で運営する大変さがありながら達成感を得れる貴重な機会でした。私の代でトロフィーを新たに購入して、OBになった後に、新人賞などで現役の学生が受け取っているのを見ると感慨深いです。運営側には荷物を増やしてしまったかも知れませんが…。

両校の選手の皆さんには、熱い試合はもちろん、運営から懇親会を経て、早慶の絆が深まるどころまで楽しんでいただきたいと思います。これからも応援させていただきます。ご健闘お祈り申し上げます。

第69回慶早バドミントン定期戦の開催、誠におめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、こうして伝統の定期戦を迎えられることを非常に嬉しく思います。昨年、私は主将としてこの舞台に立ちましたが、その時の景色を鮮明に覚えています。

今年も昨年と同様に新型コロナウイルスに社会情勢が大きく動かされた年でした。一時期は感染者数の爆発的な増加により、様々なスポーツイベント、競技大会が延期、中止を余儀なくされ、日常の練習へも大きな影響を及ぼしました。現役の皆様も入替戦の持ち越しや練習時間の短縮などにより、多くの迷いや不安、困難が1年間を通して付きまとっていたことでしょう。それでもここまで継続して活動できたのは、現役の皆様自身が努力し続けてくれたことに加えて、OB・OGの方々、コーチ、大学関係者の強いご支援があつたことだと感じております。今回の慶早戦は、オンライン配信に加えて現地での観戦もできることから多くのOB・OGの方々が応援されることと思います。現役の皆様には、バドミントンができることに対して感謝の気持ちを胸に抱き、慶應義塾の看板を背負って全力で戦っていただきたいです。また、この慶早バドミントン定期戦が新型コロナウイルス感染症という長い暗いトンネルの中で、一つの光明になると信じております。

最後になりますが、今回の慶早バドミントン定期戦が素晴らしい戦いになること、また今後の両校のさらなる活躍を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。

第69回早慶バドミントン定期戦の開催誠におめでとうございます。伝統ある今大会に関わることができたことをお慶び申し上げます。

近年、日本のバドミントン競技力は世界でもトップクラスのものとなっており、世界を牽引する立場となっています。直近のワールドツアーでも日本代表が大きく活躍しており、その中には早稲田大学OB・OGの方もいらっしゃいます。そのOB・OGの方々も早慶バドミントン定期戦を経験しており、自身を顧みても、早慶戦はととても記憶に残る試合となっています。

新型コロナウイルスの影響で、懇親会がなくなり、選手・OB・OGの交流が減ってしまったかとは思いますが、オンライン配信等新たな試みのおかげで時代に合ったつながり方が可能となっています。こんな時代であっても常に早慶両校の発展を願い支え続けてくださるOB・OGの皆様に感謝申し上げます。

両校の更なる発展を祈念いたしまして、前主将挨拶とさせていただきます。

初めに、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様、そして歴史ある慶早戦を今日まで開催しつづけてくださった慶應、早稲田両校のOB・OGの皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会で69回となる伝統の一戦に主将として出場できたことを大変誇らしく、名誉に感じております。

本年は昨年から続く新型コロナウイルスの世界的大流行によって様々な制限を受けた1年間でした。徐々に緩和され、以前の練習量を確保しつつありますが、本年の初めには体育会活動の中止や、練習時間や設備使用の制限を設けられ、大変苦しい状況でした。昨年とは異なり、本大会をはじめとし、関東学生バドミントン選手権やリーグ戦、東日本大会など、部員一同が待ち望んだ試合が開催されました。試合ができる、練習が十分にできる喜びを噛みしめた1年間となりました。

毎年、慶早戦に出場する先輩方の気持ちのこもった熱いプレーに胸を打たれ、感激していました。その姿から、言葉では表わしがたい多くのものを受け取ってきました。特に、先代からバトンを受け継いだ際に、その重みをずっしりと感じ取りました。試合がなかった先代の無念、そして昇格を目指して日々追い込み、数々の試合を戦ってきたOB・OGの皆様の思いに応えるべく、1年間走り抜けて参りました。結果としては早稲田に大きく差をつけて敗れましたが、義塾の力は向上しており、後少して勝利できる試合も多くありました。今回は果たせなかった悲願の慶早戦勝利は、次の代に託します。

慶應義塾体育会に所属して4年間、私は多くの人に支えられてきました。監督、コーチをはじめ、偉大なる先輩方、同期、後輩、保護者の皆様には感謝してもしきれません。皆様のおかげでバドミントンが上手くなっただけでなく、様々な経験ができ、人として大きく成長を果たすことができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以上をもちまして、主将挨拶とさせていただきます。



今年で69回目を迎えた早慶バドミントン定期戦でしたが、良い結果で締めくくることができ、悔いなくバドミントン部を引退することができました。

インカレ等の団体戦とは違い、5複10単で行われる早慶戦はまさに総力戦です。普段試合に出場しない選手たちも一体感をもって戦うことができる貴重な機会でもあります。

そんな意味のある早慶戦で勝利を収めること事ができたのは一生の思い出として、私の心に残り続けます。個人としてもシングルスで4年生にして初めて勝利出来ました。引退試合ということも相まって、チームメイトの声援を背に受け試合をするのはとても感慨深く、試合中はベンチを振り返ることができませんでした。

来年度の第70回大会も、後輩たちが存分に力を発揮してくれると信じています。

最後にはなりましたが、早慶戦の開催にあたり、ご協力いただいたOB・OGの方々をはじめ、監督、コーチ、トレーナーすべての方々に感謝申し上げます。



KEIO



主将
竹本 功貴
理4
高岡 (富山)

文字通りの慶應のビッグ・ボス。ありとあらゆる人にアドバイスを送り、チームのレベルアップに努めてきた。2度の落涙を乗り越え、リーグ優勝を達成した彼の功績は大きい。今年度の裏主将戦はポケモンカードで行う予定らしい…



副将
稲原 溪
経4
日比谷 (東京)

奇想天外、大胆不敵なインテリヤンキー。八木橋日く、6年付き合っても意味がわからない人らしい。生意気な後輩の面倒を見過ぎていた彼は、年末まで毎日MACを食べる予定。ヘビーすぎる食事とは裏腹に、軽快なフットワークと絶対に諦めない精神力でコートを支配する。



主務
結城 拓也
商4
県立浦和 (埼玉)

次期ダ埼玉国王。誰にでも漢気じゃんけんを吹っかける野蛮さは地域性ゆえだろう。そんな彼は、激務すぎる主務としてあらゆる仕事をさばってきた。本当にすごい。壊滅的な語彙力はさておき、今年も鉄壁レシーブで相手を壊滅させるに違いない。



塩谷 拓人
医4
慶應義塾 (神奈川)

知恵の実と生命の実を併せ持つ最強の漢。ペンを握れば高偏差値を叩き出し、ラケットを握れば鋭角スマッシュを叩けつづける。超人すぎて多分紙幣に載る。準慶應ボーイが聖地・日吉で伝説を巻き起こす。



高科 幸平
理4
サレジオ学院（神奈川）

屈強なボディにはやんちゃなハート、逆コナンなエース。クールそうな見た目だが、一旦口を開けば人を執拗にいじり倒す残念な性格。口は緩いが財布の紐は固い。爆裂スマッシュと声出しドロップで勝利をもたらす。



田村 侑己
環4
八王子東（東京）

異国・八王子からやって来たシテイボーイ風プリンス。序盤は人見知りと呼ばれていたが、かなり緩和されたように思える。口からは弱音、鼻からはポテトがこぼれがち。ミラクルスマッシュの躍動感溢れるプレーに乞うご期待。



女子主将
小沼 みなみ
文4
西武台千葉（千葉）

4年に渡り、女子エースとしてチームを引っ張り続けたみなみさん。そのプレーや姿勢のカッコよさは部全員の憧れの的であった。リラックマやマックについてなど様々な話題で場を盛り上げてくれた。最後にハチマキ姿見たかったです。。。



女子主務
福田 瑠奈
文4
大宮（埼玉）

HPに載るほどの優秀な学生の瑠奈さんは女子主務として長きに渡り、部の運営を支えた。勉強との両立をしながら、慶早戦の準備を進める姿はとても頼もしかった。また、コロナが落ち着いたら食に関する伝説を作っていって欲しい。



副務
青木 空
文3
多摩科学技術（東京）

南米出身、下文系、爆モテと見せかけて純ジャバ、元理系、非モテ男という逆張り男。海鳥を見上げ練習していた日々から一転、懸命に水鳥を追う生活となり早一年。その腕はメキメキと上達している。しかし、シ〇ドバは悪手が目立つ。マックポテトは一気にLサイズ5個を食べられる。



副務
八木橋 優希
法法3
日比谷（東京）

笑いをとるためならなんでもやります。身を挺し続けた結果、威厳は完全に消え去った。立場的にはもはや、9人目の2年生である。スマッシュを打つことが生き甲斐となりつつある彼の最近の悩みは、弟がよそよそしいことである。



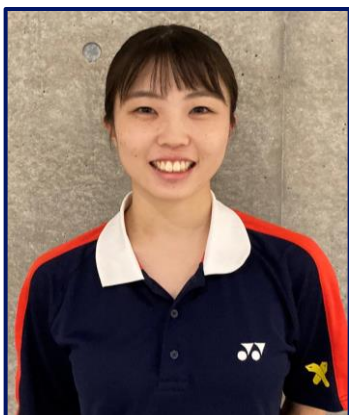
迎 俊輔
法政3
本郷（東京）

データ
近影:↑
重量:りんご3個分
愛称:ゆうなれば熱男
戦闘力:53万
髪型:擬似坊主
趣味:謝罪
体質:主人公(主に孫悟空)
座右の銘:ファイナルラブゲーム、スタート!



川井 宏之
商3
慶應義塾志木（埼玉）

いや、数多くの伝説を作り過ぎた精神と時の部屋の住人。いや、本当にあらゆる事がスロー。いや、寡黙な青年であり、入部して一年以上が経過するがその生態は謎に包まれている。いや、鍵を握るのは青木のゼンリーのみ。いや、頑張れ、いや、青木、いや。



三島 亜里紗
商3
熊本第一（熊本）

後輩として先輩方に可愛がられていた彼女も今や女子主将として沢山の後輩を従えている。サウスポーから繰り出されるキレのあるショットと負けん気由来の粘り強さで、パワフルなプレーを見せる。



調子 達哉
文2
狛江（東京）

自分なりの確固たるバドミントン道を貫く男。王道なラリー型のプレースタイルで、多彩なショットで一瞬の隙を逃さない。ここまですごいよさげだが、遊びになると残念な本性が露呈する。「調子ゴジラ」をみたい方は相当の覚悟をしてください。



永見 優羽
経2
慶應義塾（神奈川）

騒音担当。スピーカーがないと命が危ないのか疑うレベルで常に携帯している。自他ともに認める隠れ真面目で、練習中は自分のプレーで頭がいっぱいである。スマッシュ練習においては、地球中から元気を集めながら、雄叫びを上げている。しかし、色恋沙汰では爆音が鳴りを潜めている。



松元 遼
法法2
慶應義塾（神奈川）

今や体育会歴史No. 1のベテランエース。抜群の運動神経であり、精確なショットと軽やかなフットワークは美しいの一言。憎めない顔で、あらゆる先輩をいじり倒している。本当に恐ろしい男である…松元くんの弱みを握っている人はぜひ私まで。



高木 将臣
商2
須磨学園（兵庫）

コテコテの関西弁が抜けない元スプリンター。主将はしばらく本名が「まさしん」であると勘違いしていた。経歴からもわかる通り、とにかく足が速く、周りを置き去りにすることもしばしば。愛嬌のある性格で部の清涼剤となっている。ある一定の条件を満たすと首が座らなくなる。



中村 優介
理2
岐阜（岐阜）

会計を任されている2年随一のしっかり者。入部して以降、すっかり逞しくなった彼は実力をメキメキと伸ばしている。中でもフォアのカットは一級品。もう打たないでほしい。全学年からいじられており、「おい、おい」という囁語(乳児が発する意味のない声)よろしく謎のリアクションを連呼しがち。



平林 航
総2
慶應義塾（神奈川）

塾高が産んだ恐るべき暴れ馬。割と考えていることが口に出るタイプで、部の新しい取り組みも彼発進であることが多い。バズーカスマッシュ、爆発的なドライブと、朝の弱さで皆を圧倒する。



橋本 柊吾
薬2
県立千葉（千葉）

見た目のクールさがとてつもないが、喋っていることをよく聞くと割と変人。薬学部ということで毎日勉強と向き合っている。よく練習前にマックの商品を嗜んでいるがなぜそんなに早起きできるのかわからない。そんな彼の持ち味はドロップやレシーブに代表される丁寧なプレー。



牧野 桐子
法政2
岡崎城西（愛知）

早稲田キャプテンを兄に持つおしゃれガール。どこか抜けており、基本的にはふわふわしている。国際的なインターンを始めるなど、才女としても一面もある。ふわふわしてるけど。ラケットを握ると、テクニックを駆使して流れを作るプレイヤーに変貌。ここではふわふわは消える。



各務 達郎
経1
成蹊（東京）

ネジが外れている不思議少年。天才なのか馬鹿なのかわからない瀬戸際の謎発言で周囲を惑わせる。(多分馬鹿)都学連のメンバーとして大会運営に尽力するなど誠実な一面も持っている。もちろんショットもトリッキー派。発展途上なので完成形が待ち遠しい。



高久 駿吾
法法1
慶應義塾（神奈川）

直毛であった彼も今や埼玉のヤンキー風のパンチパーマ。真面目な好青年だったのは最初の一月で、今や完全にいじられキャラ。ニヤニヤ時のリアクションのヴァリエーションが実に少ない。ex.「えぐいっす」「マジすか」「やばいっすね」塾高出身者共通の恵まれた運動神経が下支えする強烈な強打がえぐいっす。



原蘭 陽斗
法法1
巣鴨（東京）

名門巣鴨出身のゾノくんは、今日もお兄ちゃんの服を着ています。アキちゃんは時々こぶしのかかった奇声を上げます。そんなエアドロクんの売りは、3年間のブランクを一切感じさせない鋭いスマッシュです。あだ名がいっぱいです。先輩には敬語忘れがちです。



山下 元透
法政1
慶應義塾（神奈川）

名前が珍しいオムライス過激派。彼もバドミントンはブランクがあるが、日を重ねるごとにフォームが洗練されている。学業やバイトにも抜かりなく精を出す彼だが、間食へのお金遣いが荒い。金銭感覚の崩壊に悩まされているが、漢気がありすぎてコンビニに行く際は必ず財布の札を数えている。



荒木 駿太郎
商1
長崎北陽台（長崎）

菜々緒びっくりの美脚ボーイ。先輩たちからはタンパク質を強要されているが、永遠の美脚らしい。長崎出身ということだが、入部した時点で方言が消えているという脅威の適応力を見せた。スマッシュのノックの際には必ず高久に鼓舞されるという伝統行事がある。



半田 壮玄
総1
宇都宮北（栃木）

宇都宮からやってきた多彩な才能を持つ男。先輩との距離がとにかく近く、この距離の詰め方も才能なのか。音楽への造詣も深く、騒音担当の永見とよく話している。インターハイ出場経験のある彼はとにかく本番に強い。キレイレのスマッシュの連打で相手を粉砕する。



比嘉 七海
薬1
山手学院（神奈川）

何かと騒がしい男性陣に負けないうパワフルな比嘉ちゃん。男どもを顎で使っているのを見たことがある。怖い。練習熱心でさまざまな部員と羽を打ち合う姿がよく見られる。安定したミスが少ないプレーには今後も期待がされる。あと、髪を染めた時は気づいてあげてください。

監督
岩田 好造
Kozo Iwata



昭和63年経済学部卒
長崎東（長崎）出身
リクルート

現役部員を見えるところと、特に見えないところの両面から支えてくださる先達者。巧みな話術で部員に様々なことを伝え、視野を広げてくださる。本人は「もうラケットを握ることはない」と仰っているが、監督の熱い姿勢から想像される、鬼気迫るプレーを一度は目にしてみたかったと思う。

ヘッドコーチ
竹鼻 拓也
Takuya Takehana



法政大学卒
金沢二水（石川）出身
Apple Japan

誰よりも熱く、そして誰よりも厳しい。指導が厳しくて逃げ出してしまうたかった部員は数多く。しかし、そんな厳しさも部員のことを思っていることである。ショットや動き方は勿論のこと、バドミントンへの姿勢、勝利への、ひいては1球への執念は部員全員がお手本としている。

コーチ
青木 孝徳
Takanori Aoki



早稲田大学卒
常総学院(茨城)出身
NTT東日本

竹鼻コーチとは異なった視点から現役部員にアドバイスをしてくださる。試合時の点数の取り方、気持ちの持ち方など、勝つ選手になるために必要なことを伝えてくださる存在。与えられるトレーニングはもちろんきつい。

男子コーチ
上村 聡
Satoshi Kamimura



平成30年文学部卒
西武台千葉（千葉）出身
キリン

カッコいい先輩。プレーは勿論、向き合う姿勢までカッコいい。彼から影響を受けた部員は数多くいるであろう。しかし、トレーニング時に目をつけられた者は、カッコいい先輩からのありがたご指導に必ずと言っていいほど嬉しい「悲鳴」をあげる。

(*) 各コーチの紹介欄に掲載されたコメントは、各コーチの人柄や生き様に対して抱いている印象を基に竹本前主将が書き綴ったもので、コーチ本人の言葉ではないことをおことわりしておきます。

WASEDA



主将
牧野 倫太郎
スポ科4
豊橋東（愛知）

我らの頼れるビッグボスマイキー。間違えたマッキー。みんなに頼られる存在でありよく後輩から課題の手伝いを頼まれている。褒められると頭を振りながら下を向いて照れる。



大林 拓真
スポ科4
埼玉栄（埼玉）

ピンチのときに現れてくれるオールマイティ的存在。フィジカルはアイアンマンにも劣らない。華麗なフットワークと力強いスマッシュは男でも見惚れてしまう。



友金 利玖斗
スポ科4
神戸村野工業（兵庫）

生粋の関西人。東京に4年間住んでいたにも関わらず、コテコテの関西弁を話す。車の運転技術は高く東京をブイブイいわせている。ガンダムが大好きで「ユニコーン」とよく叫んでいる



女子主将
平野 紗妃
スポ科4
九州国際大付属（福岡）

料理上手な女子キャプテン。面倒見がよくて早稲田のお母さんの存在。ジャニーズが好きで部室ではよく音楽が鳴り響いている。



鈴木 ゆうき
社学4
聖ウルスラ英智（宮城）

誰もが振り返るようなおもしろいくしゃみをする先輩。トップの成績を残し続けてきたが、バドミントン選手ではないようなスタイルの持ち主で、笑いにおいてもセンス抜群。



緑川 大輝
スポ科3
埼玉栄（埼玉）

日本B代表として活躍しているさなかポケモンマスターも目指している。最近では1500回のリセマラの末色違いパルキアをゲットした。何時間かかったのだろう。また、部活後の帰りは1人で帰れないという可愛い一面も持っている。



一宅 翔太
国教3
早稲田佐賀（佐賀）

現在はハワイに留学中。部活在籍中のため部活はzoomを使ってオンライン参加をしている(大嘘)。来年は早慶戦がハワイで行われることを願っているそう。(大嘘)



吉田 瑠実
スポ科3
埼玉栄（埼玉）

頼れる早稲田のエース吉田さん。バドをやっているときは真剣だが、笑いのツボに入ると大変。他の人とはツボが違うので、1人でずっと笑ってます。



佐原 穂香
人科3
近畿大学附属和歌山(和歌山)

誰よりも食べ、誰よりもいじられる佐原さん。「佐原さん」があだ名になっており、苗字以外で名前を呼ぶ人はいない。一発芸を頼むとやってくれる。



池端 元哉
スポ科2
熊本学園付属（熊本）

彼は誰にでも優しいあざとい系男子。早稲田のあざと系2人目である。もう一人のあざと系トップ女優とタッグを組んで何を企んでいるのか。みんな気をつけよう。あざと系、ダメ、絶対！



清水 皓基
社学2
比叡山（滋賀）

滋賀県代表ムードメーカー清水皓基。彼女にベタ惚れで、彼女とあった日はバドの調子が良くなる。部屋の片付けは苦手な部室を掃除したら率先して汚す。



荒島 一太郎
人科2
豊橋東（愛知）

おじいちゃん(いい意味)。一人暮らしをしているが実家のような安心感があり、ホームシックになった部員がよく泊まりに行く。トイレにはブラックホールを飼っていて観光名所の一つである。



佐々木 健人
スポ科2
海城（東京）

部内1ミステリアスな男。私生活はまだ解明されていない。生息地は東京のどこか、第1回早稲田大学2年生彼氏にしたいランキング1位を獲得した。もはや好き。



宇都 智香
スポ科2
聖ウルスラ学園英智（宮城）

幼くてかわいい雰囲気と声とは裏腹に、プレーでは攻撃的に相手を追い込む宇都ちゃん。一学年下に女子がいないので、先輩として振る舞う姿を見たい。



町田 脩太
スポ科1
瓊浦（長崎）

1年生唯一のスポーツ特待生 Shuta Matida。一見すると体調が悪そうな顔色をしているが、本人いわくいつも通りらしい。最近は車の運転ができるようになったが、ジェットコースターに乗っているような感覚になるらしい。



中山 采人
先進理工1
駒場東邦（東京）

デッフデッフデッフフフ。この笑い声が聞こえたら中高合唱部という異色の経歴を持つ我らが早稲田のマスコットキャラクター。彼のファッションセンスには光るものがありファッションニスタ中山と呼ばれている。最近キンスタグラムを始めたらしい、



濱名 直也
教育1
明星（東京）

教育学部1年生。高身長と甘いルックス、帰国子女にも負けない英会話力をもっている高スペック人間だか、突然一発芸をしたりするという奇行に走るときがある。



監督
川合 光
Hikaru Kawai
平成17年教育学部卒
國學院久我山（東京）
勤務・学校法人早稲田大学

平成28年度から監督に就任。バドミントンだけでなく、部員の様々な面までサポート。一人一人と向き合っており、ご指導を頂いています。



コーチ
岩崎 良彦
Yoshihiko Iwasaki
平成19年政治経済学部卒
早大学院（東京）
勤務・学校法人早稲田大学

バドミントンだけでなく、様々な面において部を支えて頂いています。また、技術面では部員一人一人に親身なご指導をして頂いています。



コーチ
藤巻 光善
Mithuyoshi Fujimaki
平成17年社会学部卒
星稜（静岡）
勤務・ヨネックス

平成22年度からコーチに就任された、粘りのシングルスプレイヤー。自らコートに入っては熱く指導して頂いています。



コーチ
山田 雄一
Yuichi Yamada
平成23年度教育学部卒
関東第一（東京）
勤務・NTTコミュニケーションズ

令和元年よりコーチに就任。試合では的確なアドバイスをくださり、練習では熱い指導を頂いています。



コーチ
丸尾 亮太郎
Ryotaro Maruo
平成26年度スポーツ科学部卒
伊勢崎清明（群馬）
勤務・日立情報通信エンジニアリング

令和2年よりコーチに就任され、練習では自ら学生とともにコートに入って熱い指導をして頂いています。



コーチ
我妻 美沙紀
Misaki Wagatsuma
平成29年スポーツ科学部卒
聖ウルスラ英智（宮城）

令和元年よりコーチに就任されたダブルス、シングルス両プレイヤー。熱心な指導をして頂いております。

本年度試合結果

【大学男子戦】

慶應義塾大学 4-11 早稲田大学○

- 1D稲原・田村0(13-21,15-21)2大林・清水○
○2D竹本・結城2(21-12,15-21,21-17)1友金・佐々木
3D塩谷・高久0(12-21,12-21)2牧野・池端○
4D高科・松元1(13-21,21-14,18-21)2緑川・荒島○
5D調子・永見1(14-21,23-21,13-21)2町田・濱名○
1S稲原0(8-21,11-21)2大林○
2S結城1(9-21,21-18,17-21)2友金○
3S塩谷0(7-21,3-21)2緑川○
4S高科0(10-21,15-21)2池端○
5S迎0(10-21,8-21)2清水○
○6S調子2(22-20,21-15)0荒島
○7S永見2(21-8,21-14)0佐々木
8S松元0(20-22,16-21)2町田○
○9S高久2(21-17,21-5)0濱名
10S竹本0(11-21,9-21)2牧野○

【大学女子戦】

慶應義塾大学 0-5 早稲田大学○

- 1D小沼・牧野0(7-21,19-21)2鈴木・吉田○
2D三島・比嘉0(10-21,10-21)2平野・佐原○
1S牧野0(12-21,9-21)2吉田○
2S三島0(16-21,9-21)2佐原○
3S小沼0(18-21,16-21)2宇都○

【3賞受賞者】

最優秀選手賞(男子)：牧野倫太郎(早4)

最優秀選手賞(女子)：平野紗紀(早4)

敢闘賞(男子)：結城拓也(慶4)

敢闘賞(女子)：小沼みなみ(慶4)

最優秀新人賞(男子)：町田脩太(早1)

最優秀新人賞(女子)：比嘉七海(慶1)

【試合出場選手(慶應義塾大学)】



調子(2年)



迎(3年)



高久(1年)



塩谷(4年)



三島(3年)



牧野(2年)



田村(4年)



小沼(4年)



竹本(4年)



稲原(4年)



松元(2年)



永見(2年)



比嘉(1年)



高科(4年)



結城(4年)



【試合出場選手(早稲田大学)】



吉田(3年)



牧野(4年)



宇都(2年)



鈴木(4年)



平野(4年)



荒島(2年)



濱名(1年)



清水(2年)



友金(4年)



大林(4年)



池端(2年)



佐原(3年)



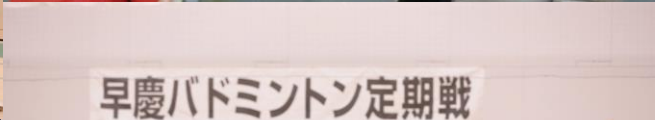
佐々木(2年)



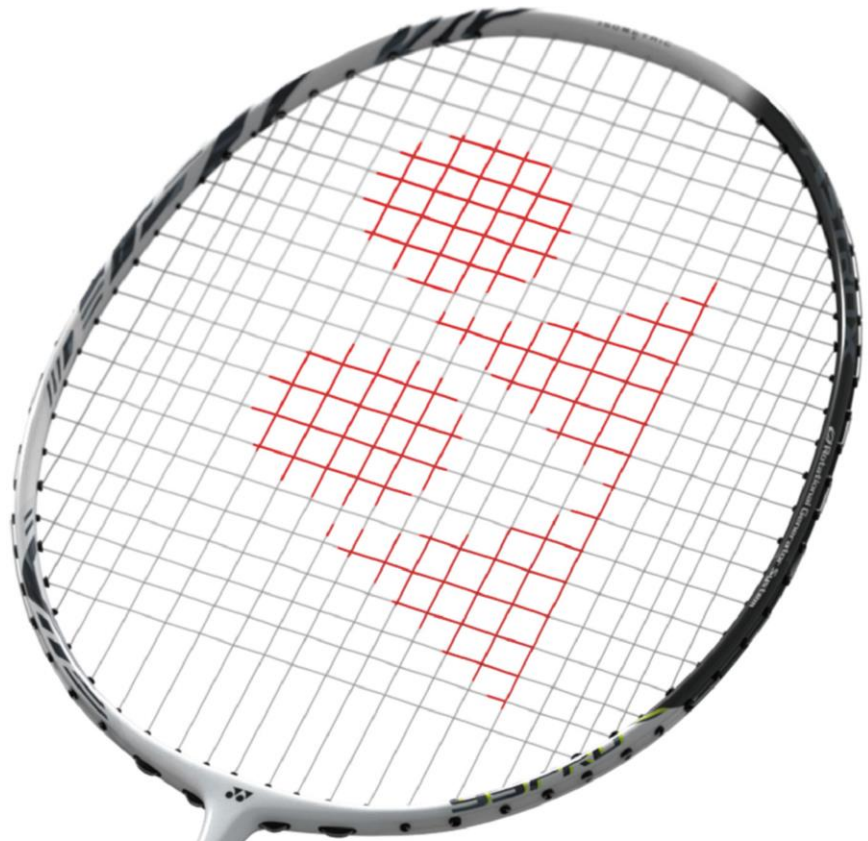
町田(1年)



緑川(3年)



NEW ASTROX 99



最大の一撃へ。
自ら時間を創り出す。

www.yonex.co.jp  YONEX.JPN  yonex_jp  yonex_jp

【アストロクス 99 プロ】 ホワイトタイガー、チェリーサンバースト ¥29,700 (税込) 日本製
【アストロクス 99 ゲーム】 ホワイトタイガー オープン価格 台湾製



far beyond ordinary

WEMBLEY

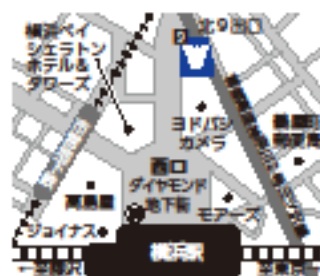
BADMINTON PRO-SHOP for FINE WINNERS.



GAKUDAI
03-3716-2626



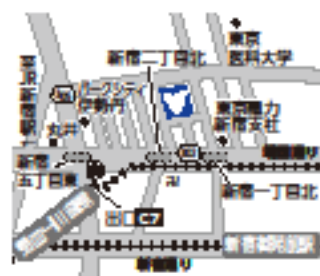
IKEBUKURO
03-5952-7070



YOKOHAMA
045-317-5959



SHIN-YURI
044-965-4411



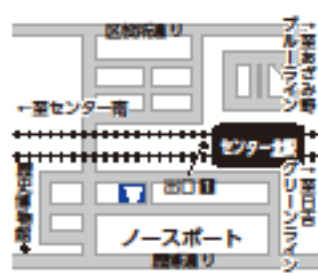
SHINJUKU
03-5366-6555



AKIHABARA
03-5829-9779



FUJISAWA
0466-26-7272



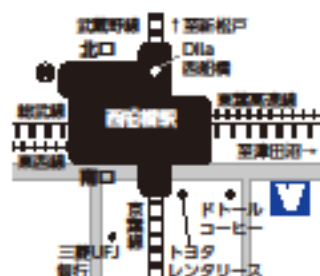
CENTER-KITA
045-910-1171



SHIBUYA
03-3409-6622



CHOFU
042-490-5588



NISHI-FUNA
047-404-4949

www.bps-wembley.com

バドミントンプロショップ ウエンブレ

Open 月~土 11:00~20:00 日・祝 11:00~18:00

定休: 月曜/月曜と重なる祝日 (学大本店のみ日曜・毎月第1月曜定休)

